



長らく続いた寒い冬を終え、コロナが第5類になって初めての春が来ました。
今年の花見は、以前のように賑やかに行われるのかと思うと心が躍ります。参加される方は多いかと思いますが、節度を守って参加しましょう。



トランジスタ型の 高周波焼入機 (PTG) 専用コイル導入

表題にありますコイルを導入する事により、以下の2つのメリットがあるのでご紹介します。

①代替生産に向けた取組み

現在弊社では、真空管型高周波焼入機(以下、VT)にて、20~130φまでのサイズのピン及びシャフトを熱処理しております。

その設備が止まってしまった際に、トランジスタ型高周波焼入機(以下、PTG)で代替生産が可能となるよう、専用コイルを導入しました。

ただ、代替生産をするには、取引先企業様の製法変更の承認が必須なので、スケジュール管理をし、早期に承認を得る所存です。

ここでは、1つのコイルしか紹介できませんが、今年の6月にもう4種のコイル(対象製品サイズ80φ、100~120φの10φ刻み)が導入される予定となっており、上記同様、製法変更の承認を取得できれば、既存の製品に対してほぼカバーできるようになります。

②VTでは実現できなかった規格へ挑戦

弊社のVTでは、焼入深さが表面から2mmまでの規格の製品をターゲットにしていますが、もっと深い規格を処理できないかという相談が多々あります。

PTGでなら、VTでは実現できなかった焼入深さを処理するスペックを有しているので、導入したコイルを使用し、受注の幅を拡げられるチャンスと捉えています。

本件も①と同様に、スケジュール管理をし、早期受注に繋がりたいと思います。



Fig.1 PTG専用コイル(対象サイズ90φ)



Fig.2 トランジスタ型高周波焼入機(PTG)

現品票ラベル発行機の導入

業務効率向上のためにラベル発行機を導入しました。
昨年12月を準備期間、今年の1月より使用を開始しました。

今まではガムテープを使用して現品票を作成、現品に添付していました。



現在は下のように作成したラベルデータを機器に送信し現品票ラベルを発行、現品に添付しています。



個人で文字の大きさに差があった点が統一されました。
ラベルは耐水性に優れ、記載の文字も屋外使用や雨天の場合でも消えません。
現品票を確認する製造課も、添付する管理課も文字が見やすくなりました。
手書き作成であった手間が省略され、ラベル発行枚数が多い際の作業時間が、約2/3削減されました。
現品票ラベルが紛失してもデータをバックアップしているため、再発行が簡単に出来ます。

右の写真のようにクリアケースに入れて、悪天候の際などの飛散防止や製品カゴ毎の現品票が必要な際に見やすくなりました。

従業員での現品票を発行する側、現品に添付し使用する側から意見を聞いて業務効率向上に繋げました。
将来的には現品票以外で他のラベル作成する際も、柔軟に対応できる機器です。



編集後記

4月に入って気温の高い日、急に寒い日と気候の変化が激しいです。
桜が咲いても強風で散ったりしているところもあります。
体調管理には十分お気をつけください。

裏面担当 荒井